

欧米の誤算が生んだウクライナ危機 — 現実主義に徹するプーチン

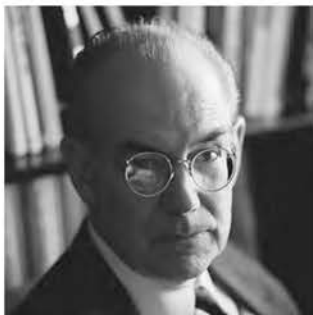
発端はNATO拡大

ウクライナ危機の出口が見えない。東部ウクライナの緊張緩和に向けたシ
ユネーフ合意後も、大規模なロシア軍部隊の撤退は取り付けられず、米國
の外交攻勢に陰りが出始めている。欧米の対口制裁を批判し、北大西洋条
約機構（NATO）拡張政策の見直しを訴えている米シカゴ大学のジ
ョン・ミアシャイマー教授に危機打開へ向けての方策を聞いた。

シカゴ大学政治学部教授

ジョン・ミアシャイマー

John J. Mearsheimer



ジョン・ミアシャイマー
1970年陸軍士官学校卒業後、将校として空軍に5年
在籍。コーネル大学で政治学博士号を取得。フルツ
キングス研究所やハーバード大学国際情勢センター
研究員などを経て1982年より現職。著書に「大國政
治の悲劇」（五月書房、2007年）や「イスラエル・ロ
ビーとアメリカの外交政策」（講談社、2007年）など
多数。

ウクライナ情勢が混迷を極めつつ
あります。
ミアシャイマー そもそも今回の危機
をもたらしたのは北大西洋条約機構
（NATO）だ。NATOが欧州連合
（EU）をロシアの支関先まで広げよ
うとしたことが発端となった。ロシア
はこれまで繰り返し、ウクライナがロ
シアの影響下から離れて、西側の一部
に組み込まれるような事態を決して許
さないことをはっきり示してきた。今
回の危機は、NATOがこうしたロシ
アの主張に耳を貸さなかったことから
生じた。

にもかかわらず、米國とEUは危機
が広がり続ける現在でも、ウクライナ
を西側に組み込もうとする政策を固持
している。そして、これを許す気が全
くないロシアは、経済から政治に至る
まで、あらゆる手段を用いてウクライ
ナを罰し、西側の一員になって反ロシ
ア政策に転じるのがいかに大きな代
償を伴うかを見せつけようとしてい
る。天然ガス価格を引き上げて経済的
圧力をかけたり、東部ウクライナを混
乱させて政治不安をもたらしたりして
いるのはそのためだ。

付くことも望んでいなかった。にもか
かわらず、NATOやEU、西側諸國
は無理やりウクライナにどちらか選ば
せようとしている。これは極めて誤っ
た政策で、今回の危機を引き起こす原
因になった。

ロシアを理解できぬ西側指導者
——ウクライナは東西の緩衝国にとど
まるべきとの主張ですが。
ミアシャイマー ウクライナにとって
最も好ましく理にかなうのは、ロシア
とNATOのどちらにも中立であるこ
とだ。もともとウクライナはどちらに

NATOがウクライナまで加盟させ
ようとしているのはまさに戦争映画の
『還すぎた橋』のようだ。ポーランド
やバルト3国では何とか成功したかも
しれないが、ウクライナとグルジアま
で触手を伸ばそうとするのは無謀すぎ
る。

そもそもロシアは2008年8月の
グルジア紛争で、この点を西側にはつ
きり伝えたはずだ。プーチンは、当時
グルジアが西側の一員になることを絶
対に許さなかったように、今回もウク
ライナを西側に譲る気など全くない。
プーチンは必要なら武器を取ってでも
こうした動きを阻止する構えだ。

プーチンが今回、ウクライナの「連
邦制」導入を提唱しているのも、中央
政府を弱体化させ、ウクライナが西側
の軌道にはまり込んで反ロシア体制に
移行してしまうのを防ぐのが最大の狙
いだ。ところが、西側の指導者たちは
こうしたロシアの懸念を全く理解せ
ず、米國は「害のない覇権国」で、N
ATOの拡大はロシアを脅かさないと
一方的に言い張るばかりだ。
ロシアは繰り返しこの主張を退け、
NATOが拡大してウクライナを取り
込もうとし、ロシアを脅かしていると
言い続けているのに、西側の指導者た
ちは一向に耳を貸さずと思いたい。自分
たちの方がいつも正しいと思ひ込んで
いるからだ。（編集部注：『還すぎた橋』
は第2次世界大戦中の連合国軍によるベ
ルリン侵攻作戦を描いた戦争映画。ベル
ギー・オランダ間の五つの橋を占領して
一気にライン河を渡り、オランダを解放

2段目 前から15行目

（誤）グルジア紛争

（正）グルジア紛争